

# 大正三年における北部九州および朝鮮・満州地方の売薬商況

——滋賀県売薬業組合聯合会「視察調査事項報告書」——

本村 希代

「視察調査事項報告書」は大正三年（一九一四）七月六日から八月二日までの二十八日間、滋賀県売薬業組合聯合会によって実施された、北部九州および朝鮮・満州地方における売薬市場視察調査の報告書である<sup>1</sup>。

近江国（滋賀県）は富山や大和と並ぶ売薬産地として知られる。東海道や中山道などの主要街道が通り、また琵琶湖を通じて日本海側の物資を京や大坂へ運ぶことが可能であった近江では、近世期より数多くの売薬が製造され、この地を往来する人々へ販売されてきた。さらに全国各地で活躍する近江商人が、これら売薬を取扱商品としたことも、近江売薬を支えることにつながった<sup>2</sup>。しかし明治期以降、西洋医学を旨とする売薬行政が展開されるようになると、和漢薬を主原料としてきた売薬業は、厳しい状況におかれた。各売薬産地は新たな対応を迫られ、様々な策を講じざるを得なくなった。

滋賀県売薬業組合聯合会は、滋賀県蒲生郡日野町に事務所を置き、その日野において製薬業を営む正野玄三を会長と

して大正三年に組織された。同会は売薬行政に困惑する滋賀県下の売薬業組合が集まり、「会員営業上ノ利益ヲ保護スル為メ関係官庁ニ意見ヲ開陳」し、また「他ノ組合団体ト気脈ヲ通シ且必要ナル事項ヲ協定」することを目的とし、全国組織である中央売薬業同盟会とも連携をとりながら活動を展開した。なお北部九州および朝鮮・満州地方における売薬市場視察調査は、「内地ハ勿論海外ニ視察員ヲ派遣シ、営業上ノ実情ヲ視察シ、世界ノ大勢ニ悖ラサル様努」めなければならぬとの危機感から実施されたものである<sup>3</sup>。会長である正野の他、橋田治右衛門、大北岩吉が視察員となり、大正三年七月六日、三名は同業者たちに見送られ日野を出発、視察を開始した<sup>4</sup>。

視察の旅程および訪問先については【表1】の通りである。各訪問先では行政担当者に面会し、その後、その地域の売薬業関係者に話を聞いている。ただし大北は佐賀にて正野・橋田と別れ、三養基郡で製薬会社を調査し、一足先に朝鮮半島へ渡り、二三日には帰国した。

さて視察先の朝鮮地方において正野たち視察員が、滋賀県出身の売薬業関係者と面談していることは注目に値する。京城では大津市出身の木村眞三郎、釜山では蒲生郡八幡町出身の中井寅吉に会っている。なお彼らは海外進出を果たした近江商人であったと考えられる。明治四〇年を前後して、繊維品の取扱を中心に、近江商人の中国大陸への出店開設が相次いでいた<sup>5</sup>。釜山において正野と橋田は「近江人会」主催の歓迎会に招待されているが、この「近江人会」の存在は、海外で活動する近江商人の多さとそのネットワークの強さを垣間見るものであろう。

なお正野たちの帰国後、八月一日に視察報告会が小学校において開かれることになった<sup>6</sup>。この視察に多くの人々が関心をよせていたことがうかがえる。

【表1】 視察旅程および訪問先

正野・橋田旅程		訪問先（行政担当者）	訪問先（売薬業関係者）
7月6日～	日野出発		
9日～	大分	市川（大分県庁衛生課長）	寺田薬局（別府薬業会長）
11日～	熊本	太田司生（熊本県庁衛生課長） ／吉村重次（熊本税務監督局）	吉田順碩（諸毒消丸本舗）/ 渡邊敬衛門（熊本薬業会長）
13日	佐賀	鶴田与茂市（佐賀県庁衛生課長） ／上原（佐賀県庁主任技手）	荒川薬店／原田薬局
14日～	長崎	（長崎県庁主任技師）	天本愛儀（六神丸）
16日	福岡	（福岡県庁衛生技師）	三吉啓次郎（実業家）／九州薬報社
17日	（下関出）		
18日～	（釜山着）		
	京城	岡本（総督府警務部衛生課長）	荒井薬房／木村眞三郎（医薬売薬卸）
	開城	《人參栽培視察》	
24日～	平壤		菊名仙吉／辻本音次郎
	安東県		井上精一（業者）／西川久之助（業者）／一木且次郎（業者）／李丕顕（開業医）
26日～	仁川		北島薬店／松尾岬
28日～	大邱		町田久吾／李靚化（業者）／漢薬問屋
31日	釜山 （釜山出）		中井寅吉（釜山薬業組合長）/ 大黒南海堂／亀井日進堂/ 大矢音松
8月1日	（下関着）		
2日	日野帰着		

大北旅程		訪問先（行政担当者）	訪問先（売薬業関係者）
7月6日～	（正野・橋田旅程に同じ）		
13日～	佐賀	立川只之（三養基郡役所郡書記）	鳥栖売薬合資会社／田代製剤合資会社
20日	京城	岡本（総督府警務部衛生課長）	蕃田薬舗
	仁川		北島岱三（業者）
21日～	釜山	橋本周平（釜山警察署）	大黒西松／中井寅吉（釜山薬業組合長）
23日	日野帰着		

出典：「視察調査事項報告書」正野玄三家文書（#2118）

## 凡例

- ・原文に適宜、読点「、」および中黒点「・」を付した。
- ・解読不能な文字は、字数分□で示した。
- ・カナは現行のカタカナに改めた。
- ・旧字体は原則として新字体に改めたが、人名など固有名詞については一部原文の文字をそのまま使用した。
- ・原文のままでは意味が通じにくい場合や誤字・脱字については、（・・・カ）（ママ）と傍注した。
- ・差別的表現や語句が使われている箇所があるが、原文の歴史性を考慮してそのままとした。

## 註

- 1 「視察調査事項報告書」（小山忠彦氏蔵）のうち、朝鮮視察についての箇所が柚庄章夫編『滋賀の葉業史』滋賀県葉業協会、一九七五年、一八三・一八四頁に一部掲載されているが、本稿では「視察調査事項報告書」正野玄三家文書（#218）を原本としてその全文をとりあげた。なお「視察調査事項報告書」は、正野玄三・橋田治右衛門による報告書と大北岩吉による報告書が、二部合綴となっている。
- 2 近江売葉および滋賀県の売葉業については前掲柚庄編『滋賀の葉業史』に詳述されている。
- 3 拙稿「近代における近江日野売葉の展開と近江商人正野玄三家」『福岡大学商学論叢』五三―一、二〇〇八年。
- 4 「日誌」（大正三年）正野玄三家文書（#287）。
- 5 末永國紀「大陸の近江商人」同「近代近江商人経営史論」所収、有斐閣、一九九七年。
- 6 「日誌」（大正三年）正野玄三家文書（#284）。

## 〔付記〕

本稿作成にあたり、現当主一〇代正野玄三氏、日野町教育委員会に史料閲覧などで大変お世話になった。ここに記して感謝申し上げる。

「大正三年七月六日出発

同 年八月二日帰着

### 視察調査事項報告書

視察員

正野 玄三

橋田 治右衛門

### 視察調査事項

#### 大分県ノ部

本県庁ハ大分市旧城内ニアリテ、滋賀県大津市ヲ距ル四百九十哩、汽車ノ便ニヨルキハ式拾八時間ヲ要シ、海路神戸ヨリ乗船スルトキハ三十時間ニテ達スルヲ得

大分市ハ最近市制ヲ実施セシ土地ニテ、一般商工業ノ不振ニ伴ヒ市中寂莫<sup>(マヤ)</sup>タリ、大工場トシテハ大分紡績アルノミ

七月九日午前九時登庁、市川衛生課長ヨリ左ノ談話ヲ聴取レリ  
本県ハ売薬事業不振ニシテ、県下ヲ統一シタル組合ハ勿論、市、郡部共ニ一ノ組合ナク為メニ本県庁ニ於テモ何等参考

資料ナク、貴県ノ如キ売薬業発展セシ地方ノ視察員ニ対シテハ赤面ノ次第ナリト

同衛生課ニ於テ調査シタル事項左ノ如シ

大正三年七月現在方数

一丸 藥 四百五十方

一散 藥 三百五十方

一煎 劑 百八十五方

一膏 藥 百三十方

重ナル売薬業者ノ住所氏名

大分市竹町 島田清次郎

同 市大道 丸山光次郎

大分郡戸次 得丸悦次

日田郡日田 岩尾昭太郎

其他僅少ナル業者者数十名ナリシ

右業者中得丸悦次ハ甲賀式配置売薬ニシテ、大分県ヲ第一ノ得意トシ、近県ヘ行商人ヲ派出セシム、岩尾昭太郎ハ店  
売ヲ主トシ、九州及四国地方ヘ卸売ヲナセリ、退庁後別府港町寺田薬局主人(元大分県衛生技手、現別府薬業会長)ヲ

訪問シ、左ノ事項ヲ調査セリ

大分県下ヲ通シテ尤モ売行盛ンナル売薬

仁丹、健腦丸、清腦丸、中將湯、命ノ母、東京竹村順血五香湯、太田胃散、ビットル散、マ□ゲン、亀田六神丸、  
万金膏、井上目薬、知新膏、首より上の薬、通痢丸、概シテ東京、大阪、京都ノ製品売行好況ニシテ地方売薬ト  
シテハ、村田資生堂、(三重) 加藤政吉郎、(徳島) 富松武助

等ノ製剤最モ売行良好ナルヨシ

本年売薬ノ状況ハ目下平年ト大差ナシ

富山其他ノ地方ヨリ配置売薬多数入込アルノミナラズ、ヲチニ式呼売行商人ノ数モ自然増加ナシツ、アルモ、一般小売  
店ニ影響ナシ、九州ニテ製造セラル、売薬ニテハ熊本吉田順碩ノ諸毒消丸ヲ第一トシ、長崎西脇及池田ノ両六神丸位ニ  
シテ、其他格別小売ニ係ルモノナシ

本県ノ如キハ田舎ニシテ旧式ノ売薬ヲ尊重シツ、アルモ、近来時世ノ進歩ニ伴ヒ、新<sup>(マ)</sup>ラシキ者ヲ好ム傾向アリ、随テ新  
聞広告等ニヨリ種々ナル製剤ヲ希望スル模様ナリ

別府町ハ海陸共ニ交通ノ便尤モ良ク、有名ナル温泉ノ湧出地ニシテ、近来非常ナル勢ヲ以テ發展シ、其店舗ノ裝飾商品  
陳列ノ模様等、京阪ノ商店ニ比シ敢テ遜色ナク、其繁華ナル儘カニ大分市ヲ凌駕セリ、戸数人口共ニ益々増加ナシツ、  
アリテ、将来有望ノ土地ナリ

### 熊本県ノ部

熊本県庁ハ市ノ東北千田畑町ニアリ、当市ハ細川<sup>(マ)</sup>候五十四万石ノ城下ナレハ、流石九州第一ノ都会ナリ  
十一日午前九時登庁、衛生課長太田司生氏ニ就キ、左ノ事項ヲ調査シタリ

大正二年度末熊本県内ニ於ケル

売薬営業者 千六百九十六名

此方数 式千九百四十六方

請売人 六千式百四十一人

行商人 四千七百八十四人

本県ニテ最多額ニ製造為スハ市内新細工町吉田順碩ニシテ、米屋町神尾三伯之レニ次ク(製造場ハ宇土町ニ有ス)、玉名郡江田村地方ハ全村殆ント売薬営業者ニシテ、滋賀県ニ於ケル甲賀郡ト等シク配置専門ナリ、本県製造売薬ニシテ他府県ヘ卸売ナス者僅少ニシテ、配置其大半ヲ占メ居レリ、其歩率左ノ如シ

一 配置 六歩

一 白店売 三歩

一 卸売 壱歩

配置売薬ハ主トシテ九州、四国ニ得意ヲ有ス

製造売薬内訳左ノ如シ

一 煎劑四分 一 丸薬四分 一 散薬二分 水薬、錠劑等更ニナシ

諸毒消丸本舗吉田順碩ノ名声ハ九州全土ニ轟キアルヲ以テ同名ニテ諸毒消丸ヲ営業ナスモノ十名以上ニ達セリ、吉田家ノ勢力推シテ知ル可キナリ

退庁後、直チニ熊本稅務監督局ニ至リ、局属吉村重次氏ニ面会シ、左ノ統計表ヲ受ク

大正二年中製造ニ係ル売薬定価総格<sup>(マテ)</sup>

一 佐賀県	七四三、八〇〇円
一 熊本県	二九六、二〇〇円
一 福岡県	二〇六、六五〇円
一 長崎県	一二〇、九六〇円
一 鹿児島県	七五、二六〇円
一 大分県	六七、八三〇円
一 宮崎県	三四、五八〇円
一 沖縄県	一三、三九〇円
合計	一、五六二、六七〇円
一ヶ年老万円以上(定価)製造戸数	
一 熊本県内	一戸
一 福岡県内	一戸
一 佐賀県内	八戸
計十戸	

午後新細工町吉田順碩氏ヲ訪問ス、当店ハ女主人ノ故ヲ以テ支配人代テ面会セラル  
当店ハ松花堂卜号シ、諸毒消丸一方ノ營業者ナルニ不抱、其製造高ハ本県全部ノ半ニ達シ、大部分ハ定価ヲ以テ自店売

トシ、近来或ル一部分米領ハワイニ向テ輸出サル、当店先代ハ長崎県諫早郡諫早町ヨリ今ヲ去ル百年前当市ニ来リ、医業ノ傍諸毒消丸ヲ調製シ、今日ニ至ルモノナリ

同家ヲ辞シ熊本薬業会長渡邊敬衛門氏ヲ訪問ス、同氏ハ売薬営業ハ微ナルモ薬種商トシテ県内ハ勿論、九州屈指ノ薬業家ナリ、店主ヨリ左ノ談話ヲ聞クヲ得タリ

薬業組合トシテハ県下ヲ統一ナシアルモ、産業組合法ニヨラザルヲ以テ諸事不取締ナルニ不拘、幸ヒ売薬ノ濫売ヲナスガ如キ不徳義者ナク、極メテ平穩ナリ

本県ニ於テモ三府ノ売薬売行尤モ好果ヲ呈シ、地方売薬トシテモ九州以外ノ製品ハ相当ナル成蹟ヲ以テ売行ツ、アリ、要スルニ販売上手数ナキ売薬（新聞広告其他ノ方法ニヨリ需用者ノ購買心ヲ惹起セシムルモノ）ヲ主トシテ販売ナスモ、近時之レニ反シ、地方売薬中比較的有効ニシテ、他店ニ請売ナサ、ル製剤ノミヲ特約シ販売ナス者アリテ、相当ノ好果ヲ納メツ、アル者ノ如シ、本県下一般売薬ノ売行ハ良好ニシテ逐年増加ナシツ、アリ

本県薬業組合ハ事務所ヲ九州薬学校内ニ設ケ、同校寄宿舎監タル園部葉劑師之レカ事務長タリ

### 佐賀県ノ部

本県庁ハ市ノ中央旧鍋島侯城内ニアリ、本市ハ三十万石ノ城下ニシテ人口三万七千人、戸数約七千戸ヲ有シ、肥前ニテハ長崎市ニ亜ク都会ナリ

近来久留米市著シク發展ナシタルヲ以テ其影響当市ニ及ホシ、商工業一般ニ萎縮シタルノ状態ナリ

十三日午前九時登庁、衛生課長鶴田与茂市氏及上原主任技手ニ就キ左ノ調査ヲナス

大正元年末現在

營業人	方数	市郡別
九九人	一八〇	佐賀郡
五三人	一七九	神崎郡
二〇五人	一、七七五	三養基郡
九六人	一七九	小城郡
一四七人	二八五	東松浦郡
一〇三人	二一六	西松浦郡
一四五人	二七七	杵島郡
一四四人	二七六	藤津郡
七四人	二二三	佐賀市

売薬ノ製造高ハ毎年累進ナシツ、アリ、一、二年ヲ經過セハ、将ニ百万円ニ達スル見込ナリ、重ナル製造者<sup>(イヌ)</sup>已人トシテハ、藤津郡鹿島町ニ森田伴助ナル者アリ、県下第一ノ營業者ニシテ一ケ年ノ産額定価金拾万円以上ナリ、併シテ同店ノ主薬タル唐人膏ハ弍万円位ノ製造ナシツ、アリ

之レニ亞ク營業者ハ佐賀市材木町薬剤師野中萬太郎ニシテ、一ケ年弍万円位ノ製造高アリ

其他<sup>(イヌ)</sup>已人營業トシテハ壹万円以上ヲ産スル者ナシ

郡部ニ至リテ法人組織ノモノ九ヶ所アルモ左ノ三会社尤モ有力ナリ

三養基郡基山村大字宮ノ浦

基山製薬合資会社

同郡鳥栖町

鳥栖製剤合資会社

同郡田代村大字田代

田代製剤合資会社

基山会社ハ營業方數二十四方ニシテ一ヶ年參万円以上ノ製産高ナリ、鳥栖会社ハ会社中最多ク製造シ、大正二年中ニ於テ拾万円以上ヲ製出セリ、方數二十三方、田代会社モ同年中六万円位製造シ、方數三十六方ヲ有スル由

販売方法ハ富山式配置ヲ第一トシ卸売之レニ亞グ、九州地方ニ主タル得意ヲ有シ、山口県及四国地方ノ一部ヘ行商ナスモノアリ

売薬種類ハ一散薬、二丸薬、三煎剤、四膏薬、五煉薬ノ順序ニシテ、水剤、錠剤等更ニナシ

退庁後市内ニテ有力ナル荒川薬店及原田薬局ヲ訪問シ店売ノ近況ヲ探リタルニ、熊本地方ノ狀況ト大差ナキニ付記載ヲ略ス

三養基郡及近郡ニテ会社ノ狀況ヲ視察スル考ナリシモ、大北氏ニ委托シ自分等ハ長崎ニ出張ス

### 長崎県ノ部

長崎市ハ開港場トシテ最モ古ク、徳川時代外国奉行ヲ置キ通商ノ事ヲ掌サトラシメタル所ニシテ、日本ノ文明ハ此地ヲ

経テ来リシモノナリ、諏訪山公園ハ土地高燥ニシテ南ハ斜ニ長崎港灣ヲ望ミ、東ハ風頭山ニ対シテ全市ヲ暇<sup>マヤ</sup>ル眺望ノ佳ナル、確カニ九州第一ナリ、県庁ハ市ノ中央ニアリ、明治四十二年ノ建築ニテ其宏大ニシテ壯麗ナル多ク其比ヲ見ズ、海運業盛ンシテ内外ノ船舶常ニ港内ニ輻輳ス、市中商工業者一般ニ活氣アリテ益々發展ナシツ、アリ十四日<sup>マヤ</sup>前九時長崎県庁ニ出頭シ、衛生課長不在ノタメ主任技師ニ面会シ左ノ調査ヲナス

県内重ナル売薬営業者

長崎市

天本愛儀

同

片峰七郎

同

竹谷藤吉

本県ニテハ六神丸ノ営業者最モ多ク、支那人ガ免許ヲ請ケ居ル者式名アリ

長崎市トシテハ天本愛儀、池田吉次郎、西脇金三郎等アルモ天本最多額ニ製造販売セリ

当市ハ昔ヨリ医業ノ發達シタル地ニシテ外国人ノ医師及薬剤師等数名アリタルモ、目下居留民減退ナシタルタメ現今ニテハ一人ノ藥種商アルノミ

本県ハ従来ヨリ売薬業發展セズ、従テ御紹介スル程ノ材料ナシ、只天本愛儀ハ我日本ニテ六神丸ヲ初メテ製造セシ者ナレハ、何カ調査ノ材料モ有ルベシト電話ニテ紹介セラレ、直チニ銅座町天本氏ヲ訪問シ主人ヨリ左ノ談話ヲ聞ク

当店ノ六神丸ハ明治二十一年九月始メテ免許ヲ受ケタルモノナルガ、其後二年ヲ経テ京都亀田、当市西脇等ガ營業セラレ、三十二年ニ池田吉次郎カ免許サレタル後、日本各地ニ続々顯ハレ、今ハ其種類百以上モアルナラン  
西脇ハ目下九州製剤株式会社へ營業ヲ讓渡シ、池田ハ微ナルヲ以テ地方トシテハ激シキ競争ナシ

得意ハ全国何レノ府県ニモ多少アルト雖モ滋賀県ノミ目下一軒モナシ

輸出トシテハ布哇ホノル、市、米国カリホルニヤ州及南洋諸島ニシテ、其定価総額參千円位ナリ

六神丸ヲ発売サレタル動機及今日迄營業上ニ関スル経路ヲ尋ネタルニ左ノ如ク答ヘラル

元來小生ハ養子ニシテ七歳ノハ貫ハレテ来リタル者ナリ、其當時ハ相当資産ヲ有セシガ、養父種々ナル事業ニ手ヲ出シ、何レモ損失ニ終リ、資産漸次傾キタル折柄、之レヲ挽回セント炭山ノ採掘ニ懸リ、更ニ大ナル失敗ヲナシ為メニ資産全部ヲ蕩尽シ、其日ノ糊口ニ窮スル迄零落セリ、此時小生十二歳ナリ、夫レヨリ数年間ハ非常ナル辛酸ヲ甜メ、幸ニ東京ニテ医業ヲ開ケル三宅氏カ親族ナルヲ以テ同氏ニ謀リタルニ、自己ノ将来ハ自己ニテ決定スベシ、敢テ依頼心ヲ出スベカラズト却テ意見サレ、其當時ハ三宅ノ無情ヲ怨ミシモ、之レカタメ大井ニ刺戟サレ、支那地方ニ於テ盛カンニ売行ツ、アル六神丸ヲ研究シ、日本ニテ発売セハ或ハ奇利ヲ薄スルヲ得ント決然支那ニ渡リ其処法ヲ得テ二十一年始メテ免許ヲ受ケタルモノナリ

当初金五拾円ヲ借入レ資本トナシ、少許ノ藥品及印紙ヲ仕入レ製品ヲ携ヘ佐賀、久留米方面ノ藥店ニ至リ強テ売付ケントセシモ、未タ六神丸ノ効能ハ元ヨリ名称タニ知ラサル者ノミナラズ、粟粒ノ如キモノ一粒式拾五錢ナレバ、誰一人合手ニナラサリシモ、種々ナル方面ヨリ説明モ為シ、嘆願モナシ、漸ク請売ノ契約ハ成立セシモ、何分小資本ノ營業者ナレハ貸込ミテハ次回ノ仕入出来サレバ、其理由ヲ話シ、実価ノ三分乃至五分金ヲ殆ント強請的ニ徴収シ、第二回ノ仕入レヲ為シ、又他方面ニ同様ノ手段ヲ以テ拡張シ、三年目ニ至リ相当六神丸ノ名称世ニ紹介サレ、漸ク發展ノ域ニ達セントスルハ、長崎西脇、京都龜田等六神丸ノ營業ヲ開始セラレ、大々的競争トナリタルモ、西脇ハ相当資産家ナレバ反抗スルモ面白カラズト窃カニ時期ヲ窺ヒツ、アル折柄、西脇ヨリ商標事件ニテ訴訟ヲ提起サレ、非常ニ心配ノ上相当経費

ヲ遣ヒタル結果、幸ニ小生ノ勝訟<sup>マコト</sup>トナリタリ、後一ケ年ヲ経テ又々西脇ヨリ支那国処方ノ証明ハ事實無根ニシテ、世人ヲ瞞着スル者ナリトノ理由ニテ其取消ヲ長崎県庁ニ迫マレリ、之又非常ナル日数ト経費ヲ要シタルモ、元ヨリ真正ノ証明書ヲ所持スル<sup>ナレ</sup>ハ之レモ亦西脇ノ失敗ニ帰セリ

之レガタメ營業上大ナル支障ヲ来シ、行商モ充分出来サル隙ニ乗シ、京都亀田ガ大々的拡張セラレタルモ西脇トノ事件ニ付同情者多ク、之レカ為メ却テ發展ノ歩ヲ進メ御蔭ニテ本日ノ盛況ヲ見ル<sup>ナレ</sup>ヲ得タリ

明治三十年長崎育兒院ヲ設立シ吉川某ナル者専ラ其衝ニ当リ居レリ、之レカ経営ニ付テハ当今一ケ月式百円ヲ要ス、併シ他人ノ給助ヲ請ケス自家ノ六神丸ヲ孤兒ニ販売セシメ、其利益ヲ以テ支弁ナシツ、アリ、当主人ハ若年ヨリ総テノ艱苦ニ打勝チ、成功ノ暁、此慈善事業ニ従事ス、蓋シ同業界ノ偉人ト云フベシ

## 福岡県ノ部

福岡市ハ県ノ西北部ニ位シ、旧博多及福岡町を併合シ市制ヲ布キシモノナリ、往古神功皇后御征韓ノ軍ヲ此地ヨリ進メ給ヒシ以来、千七百有余年ニシテ、頗ル史績<sup>マコト</sup>ニ富ミタル地ナリ、元寇<sup>マコト</sup>ノ乱敵国降伏ヲ祈願セシ日蓮ノ大銅像ハ、千代ノ松原ニアリテ座口往時ヲ追懷セシム、大建築物トシテ有名ナルハ九州大学医科及工科等尤モ人目ヲ惹キツ、アリ、海陸共交通ノ便宜シキヲ以テ、随テ商工業益々發展シ、彼ノ博多織及博多人形等ハ屈指ノ産物ナリ

十六日午前九時福岡県庁ニ出頭シ、衛生技師ニ就キ左ノ事項ヲ調査セリ

本県トシテハ売薬製産ハ少額ナルモ、他府県ヨリ送付シ来ル売薬ノ販売高確カニ九州第一位ヲ占メ居レリ、本県製剤家トシテ有名ナルハ喜久郡北方町星野万吉（ハイル皮膚病薬）田原玄洋堂（俵目薬）ナリ、其他格別多額ノ製産ヲナス營

業者ナシ

組合トシテハ県下ヲ統一ナシタルモアルモ、当今ハ只其名称ヲ存スルノミ

薬業ニ付テハ本官ヨリ実業家三苦啓次郎氏ヲ紹介為スニヨリ、同氏ニ就キ調査セラレタシ

早速三苦氏ヲ訪問シ、左ノ談話ヲ聞ク

売薬ノ集散ニ付テハ恐ラク九州各国ニ譲ラサルノ考ニシテ、販売高ハ一般ニ増加シ前途有望ナリト

実力本位ノ売薬ヨリモ矢張新聞広告ヲ利用スル者盛ンニ販売セラル、併シ改正規則ニヨリ広告文ニ制裁アルニ付、今後ノ広告力如何ハ大井ニ疑問ナリト

博多ニ株式組織ヲ以テ経営スル九州薬報社アリ、福岡県同業者ノ機関紙トシテ近来同業界ニ知ラレタル新聞ナリ、三苦氏ヨリノ帰途同社ヲ訪問ス

十七日午後十時下関出帆、鉄道院連絡汽船新羅丸(三、一〇六噸)ニ乗込ミ、玄海灘ヲ横断シ三十七・八年ノ役海戦ニ東郷大将ガバルチック艦隊ヲ全滅サレタル対島水道ヲ通過シ、十八日午前九時十分釜山着、同十時三十分奉天行列車ニテ午後九時京城着、浦尾旅舎ニ投宿ス

釜山ヨリ京城南大門迄汽車急行ニテ十一時間ヲ要ス、沿道ニ連ナル各山脈ハ総テ秃山ノミニシテ、偶々植樹ナシアルモ砂防工事不完全ノタメ充分ノ發育ヲ見ザルモノ、如シ、山間ニ散在セル鮮人家屋ハ実ニ見ル影モナク内地ニ於ケル稲小屋ニ等シキ者ナリ

京城ニ二駅アリ、一ハ南大門、一ハ西大門ト云フ、俱ニ京城々壁外ニアリ、京城ハ則元ノ韓国首府ニシテ漢城漢陽皇城ト称ス、西ニ白蓮山、仁王山、東ニ宝蔵山、天鮮山、北ニ北漢山、南ニ南山アリテ府城ヲ囲ミ漢江府ノ東南ヲ繞グレリ、

山河実ニ景勝ノ地ナリ、城壁ハ李成桂ノ築ケル処ナリ、市街中尤モ繁華ナルハ鐘路街トス、商業地ハ鎮江街ニシテ日本風ノ商家軒ヲ列ネ頗ル繁盛ナリ、人口内地人四万余、鮮人二十万、支那人三千余、其他ノ外国人八十名、電車ハ市内枢要ノ地点ヲ連綴シ、市区改正ハ前年来ヨリ著々行ハレツ、アリ、龍山京城間ハ人口増加ノタメ接続シ、遂ニ京城ニ併合サレタリ

名 勝 景福宮、昌德宮、(御苑ニハ博物館、動物園等アリ) 南山公園、漢陽公園、バコタ公園、(園内大理石十三層ノ塔アリ、加藤清正朝鮮征伐ノ時、日本ニ持帰ラント上ナル三層ヲ下シタルモ、動カザルタメ其侷ニセリト云フ)  
重ナル官衙

朝鮮總督府、李王職、中樞院、逓信局、警務總監部、柘植局、憲兵隊司令部、京城高等法院、京畿道庁、京城府庁等アリ

銀行会社

朝鮮銀行、第一銀行支店、漢城銀行、京城銀行、朝鮮郵船会社、日本瓦斯株式会社、日韓印刷会社、朝鮮製紙会社、東亞煙草株式会社、三井物産支店、各保険会社支店

教育機關トシテハ小中学校、女子普通学校、高等女学校等アリ

新聞

京城日報、毎日申報、朝鮮公論等、尤モ有力ナリ

其他病院、寺院、教会、劇場等多シ

總督府警務部ニ出頭、衛生課長岡本警視ニ就キ調査ナシタル事項左ニ

日本内地ヨリ朝鮮へ移入売薬ノ手続キヲナシタル營業者数凡參百余人、此方数約式千方ナリ  
移入売薬中七・八歩ハ日本人向ニシテ、純朝鮮人向ノ売薬ハ僅少ナリ

大正二年十二月末現在

売薬業者数(朝鮮全部ノ調査)

本業ノミ

	売薬製造	売薬移入	売薬請売	売薬行商
内地人	三四人	一四五	一、〇〇九	四〇五
鮮人	二八三人	一〇	三、五一六	一、八三〇

但シ京城府外十三道ノ内訳及本兼業ニ區別シタル統計表アルモ略ス

最近一ヶ年ニ於ケル朝鮮売薬製造高及内地ヨリ移入セラル、売薬ノ価額等質問ナシタルモ、売薬製造ニ対シテハ印紙税  
營業税ナキタメ調査ノ材料ナシ、内地移入売薬モ概シテ無定価ナル故確實ニ調査ナシタルコトナシト

朝鮮ニテハ莫<sup>(英比比力)</sup>比ヲ注射スル悪習アリシタメ、併合以來同品ノ発売ヲ嚴禁ナシタルモ、往々密売者アル状態ニ付、専ラ  
之レガ取締リニ従事ナシツ、アリト

(問) 日本政府ニ於テ許可ヲ受ケタル売薬モ、朝鮮へ移入スル場合ハ新タニ總督府ノ許可ヲ要スルガ如キ一ハ手続上非  
常ニ苦痛ヲ感スルノミナラズ、往々總督府ニ於テ許可ヲ与ヘザル売薬アルヤニ聞ク、如何ナル理由ノ下ニ此繁雜  
ナル手続ヲ要スルヤ、又如何ナル売薬カ移入不認可トナルヤヲ質問ス

(答) 移入手続キニ付テハ、近来各地ヨリ撤廃方請願スル者続々アルニ付、当府ニ於テモ近々詮議アル筈ナリト(理由ニ付テ多ク語ラズ) 移入不認可ノ売薬ハ概ネ左ノ如キモノナリ

一 劇薬ヲ使用スル売薬ニシテ、一方剤ニ二種以上ノ同功薬(例ハバピラミドン、アンチピリン) 何レモ極量ニ達スルモノ及之レニ近キモノ

但シ同功薬ニアラザル場合(例ハバタンセキ薬ニ吐根、金硫黄ヲ使用スルカ如キモノ) ハ此限ニアアラズ  
滋賀県売薬業組合聯合会ノ意見トシテ移入手続キ撤廃方懇請ナシ置キタリ

京城南大門通三丁目荒井薬房主人虎太郎氏ニ就キ調査事項左ニ

(当店ハ元仁川ニ在リシモ京釜、京義、両線全通ト共ニ将来ノ發展地ハ京城ニアリト、明治四十二年現在ノ処ニ店舗ヲ構ヘ数年ニシテ朝鮮第一位ノ薬業家トナレリ、一ヶ年売上高參拾万円以上トノコト)

内地人ヲ主トシテ得意トシ、内地売薬中有名品ヲ取扱ヒ居ラル、京城方面ニ於テ尤モ多数ニ販売セラル、売薬ハ左ノ通一仁丹、中将湯、太田胃散、健胃固腸丸、大学目薬、健腦丸、浅井万金膏、命ノ母、龍角散、サントニン剤等ニシテ宝丹、千金丹等殆ント売行ナシ

右ノ売薬中、仁丹、中将湯、太田胃散等ハ鮮人間ニ於テ非常ニ信用ヲ博シ居レリ

一 滋養剤、肝油、次亜燐等ノモノ売行良好ナラズ

一 薬品トシテハ、キニーネ尤モ多額ニ販売セラル

(朝鮮ノ風土病トモ云フベキ麻刺里亞熱ニ服用スルモノ)

朝鮮人ノ嗜好ニ適スル売薬ハ薄荷ノ強キ清涼剤ヲ第一トシ、煎薬モ相当需用アリ、総テ服薬後即効アル売薬ヲ希望セリ

内地ノ行商売薬家トシテハ東京 資生堂、伊勢 加藤、阿波 富松等毎年一回出張セラル、モ何レモ充分ノ結果ヲ得ラレサルモノ、如シ

熊本 吉田順碩ノ諸毒消丸、亀田 六神丸、井上目薬等ハ相当売行模様ナリ

朝鮮人ハ早婚ノ習慣アルタメ壯年ニ達シテ既ニ脳神経衰弱、○○○不能等ヲ惹起スルモノアル由ニテ、興奮劑ノ如キハ最多額ニ販売セラル、最近英国ヨリ輸入スル紅色補丸ナル売薬ハ確實ニ有功ナルタメ、発売日浅キニモ不抱、非常ナル勢ヲ以テ売行ツ、アリ、若シ日本ニ於テモ之ト同等ノ効力アル売薬ヲ製造セハ、慥カニ好結果ヲ得ラル、モノト信ス、朝鮮人売薬家トシテハ京城府鐘路二和平堂主李應善ナルモノアリ、營業方数五十種、八宝丹ナル清涼劑ハ朝鮮全道ニ披張セラレ、鮮人間ニ絶大ノ信用ヲ得ツ、アリ、枢要ノ地ニ支店ヲ設置スル一六ヶ所、朝鮮屈指ノ大売薬家ナリ

(参考品持帰ル)

京城南大門内ニ濟生堂ナル薬局アリ、主人ハ李興國ト云フ、朝鮮人売薬營業者ノ第一位ニシテ三十二ヶ所ノ支店ヲ有シ、滿州方面ヨリ支那一円ニ至リ卸売ヲナシ、朝鮮ハ全道ニ行商人ヲ派遣シ盛カン(マヤ)ニ製造販売ナシツ、アリ、当房ノ主薬ハ清心保命丹ト称スル清涼劑ナリ(参考品アリ)

京城府漢薬問屋ノ重ナルモノ

京城府黄金町 崔聖弼

同 崔興模

右両店トモ漢薬ノ大問屋ニシテ日々盛ンニ売買セラル

京城太平町一丁目木村眞三郎氏談話

(木村眞三郎氏ハ本県大津市木村藤三氏ノ義弟ニシテ、最近京城ニ於テ医薬売薬卸売ヲ開始セラレ、開業幾何ナラズシテ既ニ荒井氏ノ強敵タリ)

荒井氏ノ談ノ如ク朝鮮人ニ向テ盛ンニ売行ツ、アルハ仁丹、中將湯、太田胃散、大学目薬ナリ

内地ヨリ移入セラル、売薬取引直段ハ関税運賃等營業者ノ負担ニテ内地ノ割引歩合ヨリ印紙代一割ヲ控除シタル歩合ナリ

兎二角、売薬ハ販賣方法ニヨリ前途有望ナリ、併シ内地人相手ハ扱置キ朝鮮人ニ販賣セントセハ内地同様新聞広告其他引札等ノ拡張材料ヲ要ス、京城ハ総督府ノ命令ニヨリ電話広告揭示看板等一切許サ、ルニ付、広告ハ新聞ヨリ他ニ方法ナシ、広告ノ効力最モ多キ新聞ハ京城日報ナリ

滋賀県ノ同業者ニ於テ製造セラルル売薬中、当地方ニテ販賣ノ見込アルモノハ極力尽力スベシト  
一万病感応丸、小兒感応丸等ハ慥カニ販賣ノ見込アリ

朝鮮人ハ魚肉ヨリモ獸肉ヲ常食トナシ居ルニヨリ、條虫剤及サントニーネ剤ハ比較的多數ニ売行アリ、若シ京城方面ニ向ツテ拡張ノ希望アラハ何時ニテモ御相談ニ応スベシト

「京城府及龍山、在住ノ日本藥業家ヲ以テ組織セル京城藥業組合アリ、組合員五十名、古城龜之助氏組合長タリ」

人參ノ産地タル開城ニ至リ親シク栽培地ヲ視察セリ、日韓併合迄ハ李王家ノ事業タリシガ、併合後ハ之レヲ総督府ノ所属ニ移シ、紅人參ヲ官管トシ白人參ヲ民管トス、二種共同品ナルモ、其調製法ヲ異ニスルニヨリ其色訳ヲ変スルモノナリ、紅人參ハ発掘シ直チニ水洗シタル後、之レヲ蒸シ除々ニ乾燥スルニ從ヒ茶褐色ヲ呈スルモノナリ、白人參ハ発掘水洗ナシ、其俣乾燥シタルモノナリ

植込ハ畑一坪ヲ七筋ニ仕切り、一筋四本宛ニテ合計二十八本ナリ

一株ニ付苞本ヨリ三本迄ノ收穫アリ

発育充分ナル時ハ一坪ニテ金八円位ノ価格アリ

播種後六年目ニ発掘スルモノニシテ栽培中ハ日光ノ直射ヲ避ケ、殊ニ夏季ニ至リテ畑ノ乾燥セザル様注意スルコト

肥料トシテハ百四・五十年ヲ経過セシ壁土ヲ使用セリ

昨年ノ人參産額貳百万円ニ達セリト

開城ニテハ人參液ナルモノヲ製造シ、滋養剤トシテ尊重セラル、本年六月長井博士閣下カ御視察ノ儀、人參液ヲ試験サレタルニ含有中ノ「グリコシード」ナルモノ既ニ分解シ居レバ、効能ノ如キモ如何アラントノ御意見ナリシ由、兎モ角人參ハ朝鮮屈指ノ産物ナルニヨリ総督府ニ於テモ栽培方奨励サレツ、アリ

開城重ナル葉葉家

瀧井猶造

小川清三郎

平壤ハ平安南道ノ首府ニシテ日清ノ役激戦アリシ所ニシテ、彼ノ勇名ヲ轟カセシ原田重吉カ破壊セシ玄武門ハ乙密台下ニアリ、牡丹台ハ元山支隊ノ苦戦セシ処ニシテ大洞江ノ対岸二船橋里トテ大島旅団ガ乙密台へ渡江セシ戦跡ナリ、此地ニ左ノ石標アリ

嗚呼我旅団將校以下百四十名忠奮戦死ノ処

廿四日午後、同業者菊名仙吉、辻本音次郎両氏ヲ訪問ス、京城方面ト大差ナキニ付省略ス

午後三時三十分平壤発、同八時三十分新義州ヲ経テ満州安東県ニ着ス

安東県ハ鴨緑江ノ左岸ニアリ、南満州鉄道ノ支線ナル安奉線ノ起点ニシテ、満州ノ南端ニ位シ、東南鴨緑江ヲ隔テ、朝鮮ニ境シ、東ハ寬甸県、西ハ岫巖、北ハ鳳凰城ニ連接ス、南満鉄道ハ三十七年ニ起工シタルモノナリ、安東県ハ日露戦役後突飛ニ發展ナシタル地ナレハ、名勝古跡等少ナシ、只鎮江山臨濟寺、安東富士及日露ノ戦場タリシ蛤蟆塘位ナリ諸官衙、銀行、会社、学校等多数アリ

鴨緑江ニハ東洋第一ノ名アル鉄橋ヲ架シ、中央汽車ヲ通シ、左右人馬ノ往来トナス、橋長三、〇六八呎ニシテ開門式ナリ

毎日汽船ノ通行ナサシムルタメ左ノ時間ニ限り汽車ノ運転ヲ停止シ、人馬ノ通行ヲ止メ開橋ス

午前五時三十分ヨリ六時三十分迄

同 九時三十分ヨリ十時三十分迄

午後一時三十分ヨリ二時三十分迄

同 五時三十分ヨリ六時三十分迄

安東県井上精一、西川久之助、一木且次郎氏ノ薬業者ヲ訪問ス

満州向キ売薬ハ総テ朝鮮地方ト装置ヲ異ニスル

支那人ハ一度信用セシモノハ如何ナル場合アルモ容易ニ変更セズ、始メ支那人側ノ信用ヲ博スルニハ、非常ニ困難ナルモ、兩三年ヲ経バ多数売行クモノナリ、拡張法トシテハ内地同様新聞広告引札等佳トス

目下満州ニテ最多額ニ販売セラル、ハ仁丹、中将湯、及大宇目薬、太田胃散、固腸丸等ナリ、内地売薬輸入ニ関シテハ

何等手續ヲ要セス、只原価ニ対スル一割位ノ関稅アルノミ、滿州ニテ売薬營業ヲナストセバ、何等法律ノ制裁ナク原料如キモ沃剥ヲ除ク外、總テ内地ヨリ安価ナルノミナラズ、印刷、職工賃等モ廉価ニシテ、運賃、関稅ヲ要セス、奏功確實ナル売薬ヲ製造シ得テ、随テ支那人ニ信用ヲ博スルハ疑ヒナシト

支那人ノ醫師ハ無免許ノモノ多キ由ニ付、實ニ危險千万ト云フベシ

支那人ニテ滿鉄病院附屬医学校ヲ卒業セシ李丕顯ナル開業医ヲ訪問ス

丕顯ハ日本語ニ通シ内地ノ看護婦ヲ使用シ、病院組織ニテ開業ナシ居リ、南滿ニテハ有力ナル醫師ナリ患者ハ黴毒力第一トシテ、熱病、腸胃病等最多シ、近來伝染病等ハ余程減退ナシタル模様ナリ

滿州ニテ商売ヲナサントスルハ左ノ事項ニ注意ヲ要ス

日本ノ通貨百円ヲ支那通貨ニ換算スルハ平均相場百貳拾五円ナリ

故ニ支那ノ銀百円ハ日本ノ八拾円ニ相当ス

仮リニ定価一円ノ売薬ヲ六掛ニテ支那人ニ販売スルトセバ、支那通貨ニテ六拾錢、日本通貨ニ換算シテ四拾八錢ナリ、故ニ支那人ニ販売セントスルトキハ日本ノ原価ニ二割ヲ加ヘ適當ノ利益ヲ算入シテ売価ヲ決定セサレバ非常ニ損失ヲ蒙ルモノナリ

滿州地方ニ売薬ヲ擴張スルトキハ安東県ヲ起点トシ、安奉線ニヨリ奉天ニ至リ、南滿鐵道ニヨリテ旅順、漢口、大連等ニ至ル沿道ニハ、充分見込アルモノ、如シ、鴨綠江ヲ渡ルトキハ朝鮮ヨリ一時間時計ヲ遅ラス一ニ注意ヲ要ス

二十六日仁川ニ至ル

北島藥店、松尾岬ノ各店ヲ訪問ス

仁川ハ京畿道中京城ニ亜グ都会ナリ、京城ヲ距ル二十四哩ノ海岸ニアリ、明治十六年初メテ開港サレシ土地ニシテ、二  
十七・八年及三十七・八年戦役後突飛ニ繁盛ニ赴キ、今ヤ朝鮮唯一ノ貿易港トナリ、日本居留民約壹万五千人、貿易額  
ノ如キハ常ニ一ヶ年式千万円ヲ下ラズ、只遺憾トナスハ潮水ノ干満劇甚ニシテ、其差三十尺ニ及ビ、大船ハ常ニ港外へ  
碇泊スルノ不便アルヲ以テ、明治四十四年ヨリ六ヶ年継続ヲ以テ盛シニ築港工事ヲ施シツ、アリ、他日竣工ノ暁ニハ仁  
川ノ面目ヲ一新スベシ

仁川ハ二十六ノ薬店アリ、組合ノ設置アルモ製産販売等ニ至リテハ何等調査ノ材料ナシ

売薬売行ノ状況ハ京城方面ニ等シキモ沿岸ニ多数ノ薬店アリ、総テノ商品売薬等全部仁川ヨリ供給サレツ、アリ、故ニ  
小売ヨリモ卸売盛ナル状態ナリ

沿岸ノ馬山、郡山、木浦等ノ同業者ハ全部仁川ニテ仕入レヲナス、其人数百有余ナリト

目下売薬ハ年々販売高ヲ増加スルノミニテ今後發展ノ余地充分アルモノ、如シ

廿八日、京城發大邱ニ下車シ、唯家ニ投宿ス、大邱府ハ京釜鉄道沿線中屈指ノ地ニシテ、慶尚北道ノ首府タリ、鮮人二  
万八千人内地人八千五百ノ多キニ達ス、水道完成シ市區改正ハ断行サレントス、此地両三年前ヨリノ發展ハ実ニ目覚マ  
シキモノナリ、朝鮮第一ノ漢薬市ハ年二回当地ニ於テ開カレ、商人ノ来集スルモノ実ニ五千余人顧客式十万余ニ達スト  
云フ

大邱元町一丁目目田久吾氏ヲ訪問ス、主人ノ談左ニ

貴殿等モ各地ニ於テ充分御視察ヲ遂ゲラレタル模様ナレバ、日本人向キ売薬ノ説明等ハ省キ、朝鮮人向専門ノ話ヲスベ  
シト

往古ヨリ大邱ニハ漢薬市ナルモノアリテ、朝鮮全道ノ薬業家ハ勿論多少ノ薬品ヲ携ヘタル農夫等、何千人ト云フモノ来リテ市店ヲ開キ、薬品ノ競売ヲナシ、実ニ盛ンナルモノナリ、然ルニ近来総督府事業トシテ第一教育、第二衛生ノ普及ニ全力ヲ注キ、枢要ノ地ヲ選ミ、学校ヲ新築シ、鮮人児童一人一日ニ対シ拾五銭ヲ支弁シ、入学ヲ奨励シ、或ハ慈惠院ヲ設置シ朝鮮人ヲ無料ニテ施術、服薬セシメツ、アル結果トシテ、従来ノ如ク漢薬ノ需用盛ンナラサル模様ナリト日本政府ニ於テ免許サレタル売薬ニ対シ、改メテ総督府ノ認可ヲ受ケザレバ移入出来ザル如キ事ハ実ニ其当ヲ得サルナリ、如斯モノハ早ク撤廢セラル、様御尽力ヲ希望ス

以前朝鮮王ノ待從<sup>(マ)</sup>タリシ李觀化ナル者アリ、十年前ヨリ売薬製造販賣ヲナシ、朝鮮十三道ノ薬店ニ向ツテ盛ニ販賣シ、全道ノ薬業家トシテ李觀化ノ姓名ヲ知ラサル者ナキニ至リタル折柄、伊藤公暗殺事件ニ対シ或ル嫌疑ヲ受ケ為タメ<sup>(ママ)</sup>ニ營業上一大支障ヲ来シタリ、然ルニ町田氏ハ従来ヨリ薬品ヲ供給ナシタル縁故ニヨリ、之レカ救済ノ目的ヲ以テ数千円ヲ出資シ、自店ニテ使用セル薬剤師斎藤謙ナル者ヲシテ監督セシメ、盛ニ製造販賣ナシツ、アリ

町田氏ノ案内ニヨリ製造場ニ至リ李觀化ニ面会ス

本人ハ日本語ヲ解シ左ノ談話ヲ為セリ

一 本年一月ヨリ製造ノ総高五万円以上

一 方数 四十六方

一 店員職工共 十八名

一 朝鮮全部得意ニシテ一切行商貸売等ヲナサズ、全部代金引換ナリ

一 原価定価ニ対スル〇掛位ナリ(総テ費用ヲ含ム)

一 販売価格ハ〇掛ヨリ〇〇掛位ナリ

一 内地ヨリ送付セラル、売薬ノ表装ハ優美ニシテ総テ英文ヲ良トス

何トナラハ朝鮮人ハ英文ニテ記載シアラバ、総テ舶来品ト誤解シ、定価ノ高キモノト覚悟セリト

薬名ハ具体的ニ兎角解シ易ク（例セバクダリドメ、目薬等ト）記シタルヲ佳トス

如何ナル売薬ニテモ李觀化ニ托セハ多数ニ販売セラル、者ノ如シ

夫レヨリ工場ヲ視察シ参考品トシテ最モ多ク販売セラル、売薬数種ヲ貰受タリ

京町二丁目ニテ営業セル尤モ盛シナル漢薬問屋ニ至リ視察ヲナス

#### 最モ多ク産出セル薬品

一地黄、川芎、当帰、芍薬等ニシテ就中地黄、川芎等ハ内地産ノ遠ク及バザル処ナリ

一ケ年ノ産額及売価等ハ完全ナル帳簿ナキタメ調査出来サリシハ遺憾ナリシ

三十一日釜山着停車場前鳴戸支店ニ投宿ス

釜山ハ京釜線ノ起点ニシテ日本対洲ト相距ル僅カニ四十哩、湾内広ク、且ツ深クシテ常ニ大鑑、巨船碇泊ス朝鮮第一ノ

良港ナリ、往古ヨリ日本ト關係浅カラザル土地ニシテ、明治九年開港場トナリシ以来、今日ノ隆盛ヲ来シタルモノナリ、

日本居留民式万ニ達シ、尤モ繁華ナルハ停車場通及弁天町トス、釜山ヲ去ル三哩北ニ釜山鎮ナル処アリ、此地ハ小西行

長朝鮮征伐ノ時城壁ヲ築キシ処ニシテ今尚其城跡ヲ存ス

諸官衙、銀行、会社、学校、病院等宏壮ナル建築物多数アリ

森久右衛門氏ノ紹介ニヨリ中井薬局主ニ面会ス（七月廿一日大北氏来店セラレタル由）

中井氏ハ八幡町ノ人ニシテ十五年前当釜山ニ来リ、釜山病院ノ薬局長タリ、後薬業ニ従事セラル  
釜山ニハ薬業会アリ、会員四十余名中井氏之レガ組長タリ、当地ハ内地人多数入込居ルニ付、日本売薬相当売行キツ、  
アリ

内地品トシテ尤モ売行ヨキ売薬ハ仁丹、中将湯、命ノ母、太田胃散等ニシテ亀田六神丸之レニ亞グ

滋賀県ノ売薬トシテハ神教丸、感応丸ナリ、吾等視察員到着セハ近江人会主催トナリ一大歓迎会ヲ催スベク準備サレツ、  
アル模様ナリシモ、乗船ノ都合ニヨリ固辞シ、同地方有力ナル薬業家大黒南海堂、亀井日進堂、大矢音松氏等ヲ訪問シ  
午後六時帰宿ス、出発ニ際シ中井氏棧橋迄見送ラル

午後八時三十分釜山拔錨風浪尚高カリシモ、海上無恙、八月一日前七時下関着、午後七時十分同地発特急列車ニテ翌二  
日午前九時五十三分大津着、午後〇時四十分日野駅ニ着、同一時十五分聯合会事務所ニ帰着ス

七月六日出発

日数二十八日間

八月二日帰着

視察地

大分県、福岡県、佐賀県、熊本県、長崎県、朝鮮釜山、大邱、仁川、京城、龍山、開城、平壤、満州、安東県

此行程参千〇〇八哩ナリ

以上、視察中調査事項ノ概要如斯、就中李観化氏ト数時間交換セシ談話及其他各地重ナル斯業家ノ談話ヲ綜合シ、朝鮮

地方ニ於ケル売葉拡張ノ将来ヲ案スルニ、方法ノ適度ヲ得ルニアレハ、優ニ發展ノ余地アルモノト確信ス

視察員

正野 玄三

橋田治右衛門

「大正三年七月六日出発

同 年同月廿三日帰着

### 視察調査事項報告書

視察員

大北 岩吉

### 視察調査事項

一大分県、熊本県、福岡県ハ正野、橋田兩視察員同行ニ付、省略

大正三年における北部九州および朝鮮・満州地方の売葉商況（本村）

二四五（二九）

視察ノ途中方面ヲ別チ自分ハ佐賀県ニ向ヒ県下第一位売薬ノ産地ハ三養基郡ナルヲ以テ同郡役所ヲ訪問シ、郡書記立川只之氏ニ就キ調査シタル事項ヲ左ニ掲ク

売薬營業者数 二百二十五戸

行商人員数 千九百九十三人

方 数 千百七十五方

其内売行能ク最多製造セル売薬ハ

一安栄湯 一奇神丹 一酒井万金膏

一山田振出 一奇応丸 一熊ノ胆丹

一千金丹 一赤龍丹 一鱗丹

一人參五臟円 一博士目薬 一アランチヘフリン丸

一健胃固腸丸等ナリ

而シテ本郡製薬販路ハ九州、四国、中国等ニシテ配置売薬ヲ以テ専門トシ販売為シツ、アリ

郡役所ヲ辞スルニ際シ立川書記ノ紹介ニ依リ鳥栖売薬合資会社ヲ訪問ス、社長権藤清次氏ニツキ同会社ノ設立模様ヲ聞クニ左ノ如シ

当社ハ明治三十八年ノ設立ニシテ資本金壹万円出資者拾参名ヲ以テ組織ス

製造方数二十四方ニシテ大正二年度中印紙使用高四千五百円、其最モ多ク産出スル売薬ハ征露丸、之レニ亜クハヘフリン丸トス

次二同郡田代製剤合資会社ヲ訪問シ社長谷口仁三郎氏ニ就キ、売薬ノ狀況ヲ聞クニ鳥栖会社ト別ニ異ナラサルヲ以テ省略ス

## 朝鮮ノ部

七月二十日午前八時総督府ニ出頭シ、視察ノ要旨ヲ述ブルニ、本件ハ警務總監ノ取扱ナル赴ニツキ、同九時警務部ニ出頭スルニ、總監不在ニシテ岡本課長ニ就キ調査事項并ニ人性其他生活状態ヲ聞クニ大要左ノ如シ

一売薬ニ関スル事項ハ各道ニ区別セル統計表ヲ示サレ之レヲ写取タルモ省略ス（全部ノ調査表ハ両氏ノ調査中ニアリ）

## 人性及生活状態

一朝鮮国人ノ性状其他生活ヲ聞クニ、岡本課長答ラク、鮮人ハ一般ニ生活困難ニシテ毫モ貯蓄心ナク、拾中八九迄ハ所謂其日暮シノ有様ニテ、売薬ノ如キモ配置売薬ガ如キ一時的貸売等ノ見込ナク、且鮮人ハ大半以上義務ヲ知ラザル者多クシテ、仮ヘバ貧民ヨリ流行病發生スルモ、其隣家ノ者スラ同情スルモノナク、只成行二任スノミ、依リテ消毒其他療養ヲ加フルモ悉皆国費ヲ以テ支弁スルノ有様ニテ、迺モ配置売薬ヲシテ売価支払フ如キ道ナシ、尤モ鮮人ハ内地地売薬ヲ信用セズ、多クハ鮮人製薬ナル草根木皮の漢薬ヲ望ム習慣アリ、然レハ近來新聞広告等ノ為ナランカ、移入薬ニテハ仁丹、中將湯、韓国ニテ製造シツ、アル八方丹位ニ止マリ、其他委シキ事柄ニ付テハ京城府ニテ營業シツ、アル者ニ付調査セラレタシトテ、種々懇切ナル便宜ヲ与ヘラレタリ

夫ヨリ京城府水標町奮田薬舗ヲ訪問ス、此店主ハ内地人ニシテ越中富山ヨリ今ヲ去ル十九年以前当府ニ移住ナシ、專ラ売薬業ヲ営ミツ、アリテ、製造方数十四方、其製薬中尤売行盛ンナルハ清涼劑ニシテ之ニ次クハ膏薬ナリ、奮田氏

ノ所感左ノ如シ

当国移住民ニ対シ越中富山市ノ人配置売薬シツ、アリシガ、其方法ニ至リテハ一ヶ月巻回位入替ナシ居ル模様ニテ、察スルニ全部移住民ヲ得意トナシ居ル為メ、時々転任スル者多ク、依リテ数度巡商スルモノ、如シ、使用薬価支払ハ以前ハ定価ノ通り支払習慣ナリシガ、近来鮮人側ニ割引販売スルモノ多ク為メニ、目下ノ処ニ掛位ノ割引ヲナシ居ル模様ナリ、尤鮮人ハ鮮人製薬ヲ望ミ、鮮人製薬者ノ販売法ハ呼々売的行商ヲナシツ、アリ、或ハ店舗ヲ設ケ販売シツアリ、当地ハ京城薬業組合ノ設ケアリテ只乱売矯正ニ止マルノミ、規約左ノ如シ

一 組合員ハ売薬ノ定価ヲ割引シ、又ハ添付品ヲ附シ販売スル事ヲ得ズ

一 前項ニ違背シタル者ハ左ノ通り処置ス

一 違約金五円以上五拾円以下

二 取引停止壹ヶ月以上三ヶ月以下

三 除名

右処分法ハ組合員総会席上ニテ決議ス

#### 京城薬業組合

七月二十日午後二時仁川着

京城ヨリ永登浦ニ至リ支線ニテ仁川着、当府ニテ有名ナル薬業家北島岱三君ヲ訪問ス

当地ハ日本人移住民ヲ以テ市街ヲ造リ、鮮人ハ一区画ヲ作り住居ス、内地人ノ服用スル売薬ハ多ク東京・大阪等ノ移入薬ヲ信用シ、鮮人ニ於テハ婦人薬トシテハ中将湯、実母散、清凉劑トシテハ仁丹ヲ信用ス、鮮人ハ以前ハ移入薬ヲ信用

セサルモ近来非常ニ信用シ使用スルノ傾向アリ、今後年々鮮人ノ購買力増進シツ、アリテ将来有望ナリト云、配置売菓ハ前調査事項ト聊変リタル事ナキ為メ記スルヲ略ス

七月二十日午後六時四十分仁川発車ナシ、同八時永登浦駅ニ引返シ、八時三十分発京城釜山間ノ夜行列車ニ乗込、式拾一日午前八時釜山着

直チニ釜山警察署ヲ訪問シ橋本周平君ヨリ視察上左ノ便宜ヲ受ク

釜山府ハ京城ニ次グ大都市ニシテ随テ内地ヨリ移住民多ク繁栄ノ地ナリ、当地ニ売菓営業者、請売者、行商者員数左ノ如シ

一 売菓製造者 三十九名

一 請 売 者 六十三名

一 行 商 者 百八十五名

内重ナル営業者左ノ如シ

弁天町二丁目十一番地

亀井亮助

弁天町二丁目三十二番地

大黒西松

本町四丁目二十三番地

芦刈清治

室水町一丁目十六番地

杉村幹太郎

当地組合長西町一丁目

中井寅吉

前記ノ薬業家ニ電話ヲ以テ警察署長殿ヨリ、只今滋賀県売薬業視察員ガ視察上貴店ヲ訪問セラル、ニ依リ、可成視察資料トナルヘキモノ有ラバ便宜ヲ与ヘラレタシ、トノ紹介ヲ受ケタリ依リテ警察署ヲ辞シ大黒西松君ヲ訪問シ、左記ノ談話ヲ聴取セリ

当店ノ販売高ハ清涼剤トシテハ鮮人四分・内地人六分ノ売上ニシテ、其他ノ移入売薬ハ概シテ内地人八分・鮮人二分ノ割合ニテ、鮮人ハ鮮人製薬ヲ望ミ、丸薬ノ如キモ総テ大粒ノモノナラザレバ信用セズ、其他ハ多ク煎薬ヲ望ム習慣アリ、配置売薬トシテハ鮮人ニハ不向ニシテ、内地薬連モ大阪・東京地方ノ売薬売行能ク、富山市ヨリ配置売薬ナスモノアルモ、総テ内地人移住民家ヘ配置ナシ、年四・五回入替巡業シツ、アリ、尤鮮人ガ内地薬ヲ信用セザル原因ニ付、左記ノ話シヲ聞取タリ

日韓併合以前、内地売薬業者ナルモノヲ医師同様ニ思慮シ診察ヲ乞フ好機トナシ、種々ノ口実ヲ設ケ、或難病ニテ不治ノ疾病ニテモ引受の投薬ナシ不当ノ薬価ヲ貪リ、夜逃ケ同様ノ振舞ヲナシタル者枚挙スルニ暇アラズ、如斯原因ニ依リ今ニ至リ信用ヲ得ル能ハザル事トナリタリト云フ

夫ヨリ中井寅吉氏ヲ訪問ス

中井氏ハ近江蒲生郡ノ産ニシテ、当時釜山ニテ薬舗ヲ設ケ、当地薬業組合長ニシテ能ク薬事ニ通シ居人ナリ、種々薬業

ニ関シ談話ヲ聴取ナシタレド、前者ト毫モ変説無キ為メ記スヲ略ス

当地薬業組合ハ公認セシ組合ニシテ明治二十七年組織ナシ、其規約中主眼トナスハ乱売矯正ニ止マリ、他ハ別ニ珍シキ規約ナキ為メ写取ノ要ナシ、夫ヨリ同日午後八時発船帰国ノ途ニ就ケリ

以上、視察ノ概要報告候也

視察員

大北岩吉